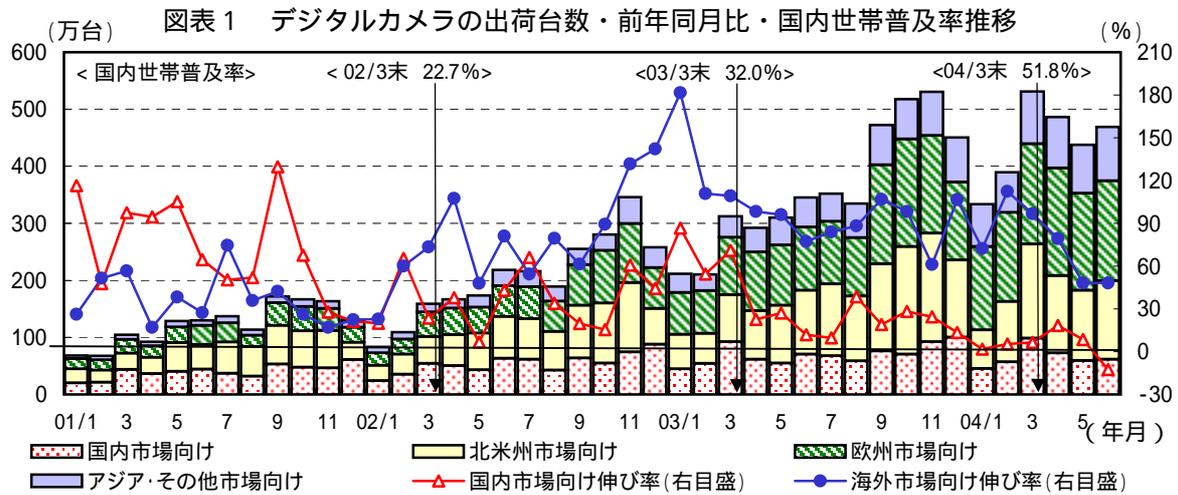




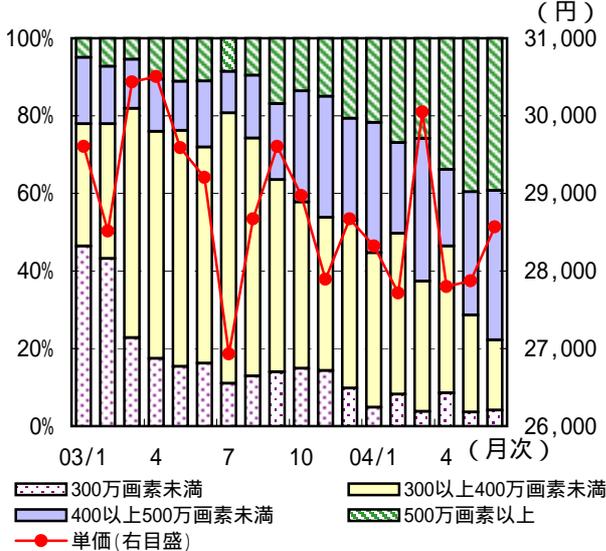
初めて前年割れとなったデジカメ国内出荷 - 生産拡大を支える海外市場とデジタル一眼レフ -

- デジタルカメラの6月国内出荷台数は、統計開始（1999年12月）以来初めて、前年同月比を下回った。順調に伸長してきた国内市場は、世帯普及率が2004年3月末に5割を超え、その伸びは鈍化傾向にある。一方、海外市場向け出荷台数は、前年同月比で42.8%増と、欧州、アジア向けを中心に引き続き堅調に推移している。
- 最近の国内市場は、急速に高画素数化が進み、400万画素以上の製品が全体の8割弱を占めているが、出荷台数当りの単価は、高画素製品の投入にもかかわらず、下落基調にある。
- こうした中、今後のデジカメ市場で期待されているのが、デジタル一眼レフカメラである。フィルム（銀塩）カメラ用の一眼レフ交換レンズを再活用できることもあり、デジタル一眼レフの登場は、一服感の出してきた国内市場において、新たなユーザー層の掘り起こしにつながるほか、下落基調にある出荷台数当り単価の引き上げにも寄与すると期待されている。

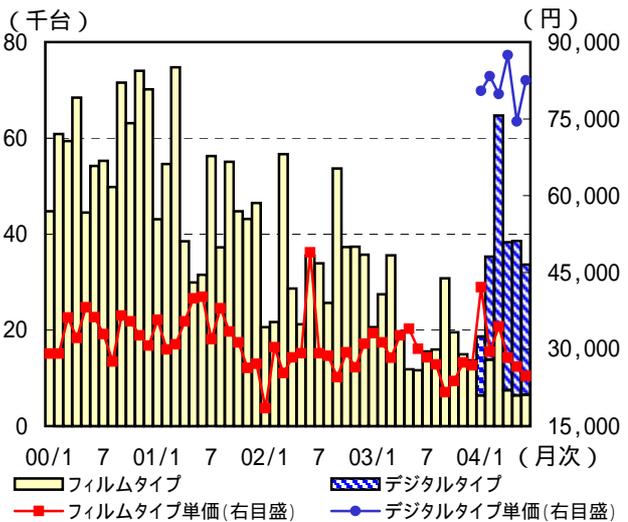


(備考) カメラ映像機器工業会「デジタルカメラ出荷統計」、内閣府「消費動向調査」により作成。
普及率は、毎年3月末現在の数値。

図表2 デジタルカメラ国内出荷台数画素数別構成比



図表3 一眼レフカメラ国内出荷台数・単価推移



(備考) 図表2、図表3ともカメラ映像機器工業会「デジタルカメラ出荷統計」により作成。
図表3におけるフィルムタイプは銀塩カメラF P (フォーカルプレーン) のデータ。

【調査部(産業調査担当) 和田 敬記、青山 志津】

お問い合わせ先 日本政策投資銀行調査部

Tel: 03-3244-1840

E-mail: report@dbj.go.jp